

議会報告会実施報告書

開催日時	平成30年11月13日(火) 19時00分～20時47分		
開催場所	西当別コミュニティーセンター	出席者	22名
出席議員	後藤議長、島田副議長、稲村議会運営委員長、市川議員、岡野議員、古谷議員、澁谷議員、秋場議員		

◎稲村議運委員長開会

◎島田副議長開会挨拶

皆さん、お晩でした。まず、議会報告会とは何ぞやということからお話したいと思います。どこの議会でも当別町議会でもそうですが、年4回、3月、6月、9月、12月に定例会があります。その中で12月、3月の定例会の報告を4月に行って、6月、9月の定例会の報告を11月に行っていて、その2回目の報告会が今日の報告会です。議会報告会を始めて今年で丸6年になり、2回ずつやっているの、12回目になります。なぜ議会報告会をやるようになったかという、議会というところはどうな議論をしているところなのか。そのへんが町民の皆さんに分かりずらいと。そういう中で、議会改革をしていこうということから報告会をして、議会の活動をよく知っていただく。そして、住民の方の思いとか、あるいは、議会に対する要望とか、色々な住民の方々の意見を聞く場を設けようということで、始まっております。これまで、町内会長さんを対象にしたり、あるいは、子育てをしている奥さん方、あるいは、PTAの方々、そのように対象を絞りながら行ってきております。今回は、農業関係の皆さんのご意見と懇親を深めながら普段思っていることをこういう場で気軽に話をさせていただきたいということで、農業関係の皆さんとの議会報告会という形になっております。昨日もあったんですけども、昨日は商工会関係との懇談をメインにして、ゆとろで行いました。今、議員が15人いるんですけども、議長を除いて半分の7人ずつで班編成して、昨日は今日来ていないメンバーが対応しておりました。残りの半分で今日対応するというので、特に今日は農業関係の議員さんを中心しておりますので、中身の深い話、そして、気軽な話をできるのではないのかなと期待しております。この後、後藤議長も遅れて見える予定であります。1時間半程度になろうかと思いますが、大変お疲れと思いますが、最後までよろしく願いいたします。

◎議員自己紹介

◎議会報告

- ・ 6月－秋場議員説明
- ・ 9月－澁谷議員説明
- ・ 決算審査特別委員会－古谷議員説明

○（稲村委員長）報告の中で質問があればお受けしたいと思う。

※特になし。

◎懇談

○（議会）これより懇談で、当別町の農業に関するフリートークということで始めさせていただく。皆さんからお話をたくさんいただけたらと思っている。当別農協の組合長であるとか、非常に重要なポストにいる方が集まっているが、できれば若い人たちのこれからの考え方を聞き、私たちの参考にさせていただけたらいいなという思いも強くある。なるべく今日集まっていたいただいた団体の皆さんからお話をいただきたい。皆さんのほうから、何か話をしたいことがあればお伺いしたい。

※特になし。

○（議会）それでは、順番にと言ったら失礼であるが、まずは、4Hクラブの会長さんからお願いしたいと思う。

○（町民）昨日、JA 青年部の管内大会があった。その中での発表で、蘭越町には農業の研修所のようなところがある。当別町で新規就農者を増やすために、例えば、耕作放棄であるとか、空いているところを活用して、そういうものを当別町として、農協とは別の方向からでも新規就農者を受け入れる体制をとっていただけると、僕たち若手にとっても心強い味方が増えていくのかなと思うので、検討していただけるとありがたいと思う。

○（議会）今のは、要望ということでよろしいですね。

○（町民）はい。

○（議会）すぐに応えられるということにはならないが、一般的には重要であると十分承知している。議員の中でも、そのような課題を持っているので、今後、何か形にできればいいとは思っている。今のところ、支援金という形ではある。蘭越という話があったが、知内であるとか色々なところで、そのように先進的にやっているところを勉強しながら進めていけたらと思う。そういうことでお受けした。今のことで、行政ばかりではなく、農協も議論をされていると思うが、この場で答えられることがあれば。

○（町民）実は、既に10年ビジョンの中に、そういう企画は入っていて、今のところ役場うちも、色々な意味でそれぞれ別に新規就農であるとかの相談に乗っている経緯はある。知っていると思うが、新規に3件くらい就農している。そういう意味で、体系的に支援しているということではないが、対応はしている。ただ、自分たちとしても10年ビジョンに載っているし、農協も7次計画が今年で終わる。8次計画が次年度から始まるが、専務とも粗々8次については話している。理事会で決定していない中で少し話しづらいが、今日も全道の農協大会に出た方がこの中にもいると思う。大きく2つの目標があって、個々の農業者の皆さんの力をつけようよ、儲けようよというようなことが1点ある。もう一つ、国も言っていることであるが、地域を魅力的なものに農業を通してやろうよというようなことを掲げている。これは、観光地域政策との話も出ているが、自分としては、その部分に新規就農、担い手対策がマッチするのかなという思いであり、今までは個々の農家の皆さんの力をつけるための個別の産業政策というか、そういう支援を1,000万円を超える金額を作物ごとにあげているし、そこに役場さんも機械のコントラの支援をしてもらったというような経緯もある。ある意味、そういうところで成果をあげてきているが、地域、あるいは、集落という観点で8次については考えていて、これについては、当別町の各団体のそれぞれを担う部門、パートがあると思うが、そこを今のところの自分の構想ではあるが、ワンストップでそこに行けば新規就農なり、担い手の皆さんのご相談にのれ

るような場所が自分としては必要であると思っているし、ぜひともそこは議会の皆さんにも支援をよろしくお願ひしたい。オホーツク、道東、それぞれ議員の皆さんは見ていると思うが、この前、浜中とかで酪農地帯があるが、あそこは、町の生乳の生産の維持をどうしているかという、新規就農、居抜き農場に新たな経営者を入れて、生乳の生産の維持をしているし、ブランド化もしている。やはり、そういう新しい血が入らないと逆に維持できない。当別が、今、そうだとは言わないが、ゆくゆくはそのような可能性もあるし、地域的にはそういう地域もあるということであるので、自分としては、非常に必要に思っている。今のところ個人的な思いであるので、そこはお断りしてお願ひしておき、議員の皆様には、9月の定例会で色々とお世話になり、特に、台風災害についても議員提案によって議決をしていただいたことに、まずもってお礼を申し上げたいし、今後もよろしくお願ひしたいと思う。

○（議会）ありがとうございます。行政も一緒にできればいいと思う。それでは、農協青年部の部長さんからあればお願ひしたいと思う。

○（町民）現在青年部では食育に対してすごく力が入っている。試行錯誤しながら、新しいことを始めたりしている。僕らの上部団体に石青協というところがあり、そちらでも食育事業があり、今年は農水省の若手職員さんと呼んで、実際に僕らの仕事を体験してもらったり、情報交換するなり、担当されている農政に対して色々教えてもらったりとかしている。要は、今の農協の方針でもあるが、一般の方々に農業というものを知ってもらうということに重きを置いている。それに関して、皆さんのほうから何か支援をいただけないかと思っている。よろしくお願ひする。

○（議会）違う観点からのお話かなと思う。たぶん、小学生や中学生が対象であると思うが、食生活については、高齢者で色々な問題がある。それらもあわせて改善していくということが大切なかなと思っている。ぜひともそのような活動をお願ひしたいと思うし、農業の活性化につながっていくものだ聞いていて感じた。そのようなことで議員のほうも認識できたのかなと思うが、それでよろしいでしょうか。

○（町民）何か機会があれば嬉しい。何か、僕らのほうからか、そちらからかお話があれば受けることも考えたいと思っている。先ほど、学生だけと話をされていたが、今、グリーンツーリズムというのをやっていて、今は学生だけであるが、旅行客ではないが、そういった体験観光という形で受け入れることもやっていたりするので、そういったこともこちらと絡んでくれたら嬉しいかなと思う。よろしくお願ひする。

○（議会）要望ということでお受けしてよろしいですね。

○（町民）はい。

○（町民）農協の新活性化センターのほうで、今、ツーリズムと薬草のほうをやっている。今、言われていたのは、ツーリズムの部分であると思う。正直言って非常に悩んでいる。ツーリズムの受け入れメンバーの農家は、登録が増えている。ただ、事務局の問題等あって、町の予算がなくなって非常に不自由をしているのが現実であり、農協としても、食に関する、農に関するツーリズム関係は、それは理由がつくからある程度お金を入れられるが、総合的に観光の面であれば、観光協会にうちの専務も出てくれているが、観光の面も含めてくると、これは農協の業務の範疇に入らない。本来は、当別全体としてのツーリズム

ムを含めた観光のデザインというか、そういうところもさっきの担い手や新規就農の話ではないが、本来はワンストップで専任の職員がいてケアをしてくれると非常に助かる。お互いに色々なところで似たようなことをやっているが、情報がないとか、バラバラでやっているとか、統一感がないとか、せっかく今回道の駅ができて、そこを起点にして観光資源や経済的な大事なネタになるといったところであるので、そこをそろそろ再構築するような時期に来ているのではないかと思っているので、その仕組みがどうあるべきかは、関係者を交えて議論していただければと思う。自分としては、農協長として思っているので、また、爆弾発言と言われるかもしれない。まだ、専務には言っていない。形は壊されるかもしれないが、支援そのものはすぐ止めるわけにはいかないなど内心は思っているが、だんだん範囲が広がると少しやりづらい部分も出てきているが、大事な活動であるのでよろしく願います。

○（議会）あわせてお聞きしたいと思う。もっと掘り下げてもみたいが、せっかく、皆さんに来ていただいているので、続いて西当別ブロック長さんのほうからあればお願いしたい。

○（町民）極めて個人的な意見であるが、うちはカボチャをいっぱい作っていて、これから農協さんのほうでもカボチャを増産していく予定であるとのことである。農協さんだけでカボチャを集荷して販売するというだけで手一杯であるので、商工会さんや町の力を借りて、加工品、特産物を作れたらと思っている。カボチャ団子みたいなものもいいなと思っていて、焼くだけで調理ができる。それを道の駅で売ったり、冷凍して札幌の居酒屋さんで出してもらうとか、そういうことをしていったらいいのかなと思う。僕らは原料を作るだけで手一杯で、他のことに手が回らない。それから、海外の観光客が増えてきていて、お土産にお金を落とす時代になると思うので、どんどん特産品に力を入れて開発していただきたいと思う。原料は、注文があるのなら専用で、カボチャであったら極めて糖度の高いものや加工しやすいものとか、品種を選定して注文に応じられるかもしれないので、そこは、相談しながらやっていけたらと思うので、よろしく願います。

○（議会）加工場というか企業誘致も含めてであるが、自分もそのことで質問をしたこともある。すごくよく分かってくれるが、すぐそれが実行に結び付いていないのが、今の現状であると思う。それはすごく関心があることで、大事だということが分かっているということが前提でお話させていただきたいと思う。

○（議会）今、お話があったいわゆる二次加工、六次産業化について、せっかく道の駅を作ったので、農産物の販売の面ではそれぞれご努力をいただいて、売り上げも上げていただいている。おそらく今年は夏の雨で農作物が良くなかったということで、色々な影響が出るのかなと思っているが、今、言われたように、ただ生産するだけではなく、それに付加価値をどう付けていくかという農業を10年ビジョンの中でも首長中心にやっていただいていると思っている。そういった意味では、議会としても町のお尻を叩いて、そういった施策をどう実現できるのかということを進めていきたいと思っているが、なかなか、商工業と農家の連携がうまくいっていないという面もあるのかなとも思うし、また、道の駅ができてすぐということもあり、二次加工、六次産業化に移行をしていくということが、まだできていないとも思う。そういった意味では、せっかく皆さんが苦勞されていい農産物を、

まして質の高い農産物を生産していただいているわけであるから、そこに付加価値を付けて生産者の皆さんの収益を上げていくということがないと当別は変わっていけないと思っている。そこで、例えば、今、六次産業化の中でも一部の農家の皆さんは、それぞれ家内工業で製品にしているという現状があるが、今、言われているように生産するだけでも手一杯だと。そしたら、どうしたらいいかという知恵を皆さんと一緒に出していかないと、その壁は乗り越えられないのではないのかなと私は思っている。ぜひ、農協さん中心、あるいは、生産者の方が組合を作られて、そこと商とか、工の皆さんと連携をどう図っていくかということをお手伝いをいただきながら、検討をしていただいて、皆さんが生産性を上げる、あるいは、収益を拡大していくという取り組みをぜひしていただきたいと思うし、議会としては、それを応援させていただければと思っている。具体的に、どういうところに問題があって、なぜできないのかという点で、皆さんが感じている部分があれば、お聞かせいただければ議会としても取り組みやすいかなと思うので、もしそういった点があれば、お知らせをいただければありがたいと思う。

○（議会）今、議長から質問もあったような気がするが、それについて何かあれば。

○（町民）僕がよく分かっていないからかもしれないが、なかなか他のところと結びつかないなと感じている。原料を作って、当別町でお菓子屋さんがいたら、使ってくれたらいいと思うが、実際に使っているのは全然違うところのだったりする。

○（議会）おそらく、皆さん規模も大きく生産したものをどう処理するかという時間がたぶんないと思う。であるから、例えば、行政として、農協さんとして、それをコーディネートするような人がいて、美味しいカボチャがたくさんできて、それを製品にして、先ほど焼くだけと言われたが、ちょっとした洒落たパッケージを作ることによって、ポンと値段が上がる。そういったコーディネートをするような人を例えば町なり、農協さんと一緒に雇うというか、そういうところを作って、生産者の皆さんの色々な製品にするための悩みを聞いたうえで、それを形にしていく。おそらく、赤れんがさんなんかはそれができたのかなと思うが、まだおられましたっけ。そのへんどうですか。議論を進めるうえで、参考になるご意見があれば伺いたいと思う。

○（町民）今年の7月に東北・北海道地区の女性農業委員の大会に出てきて、六次化のお話があった。福島県に行って、福島県では桃がとれるということで、桃が落下したり、熟れすぎたり、傷がついたりして、製品に出せないものがある。また、青森から来ている委員さんは「リンゴがたくさん落ちて痛ましいので、ジャムにしたいです。ジュースにしたいです。加工して売りたいが作ってくれる人もいなければ、どこに売ったらいいかもわからないです。私農家なんで。」という方がみえた。その方に対して、その時、講師で来られていた方が、こう言った。「原料があるからそれを加工して売りたいんだではなく、スタートはそこではない。」と。「それは、あなたが作りたいものは、誰に、どんな人に、どういう時に食べてほしいですか。使ってほしいですか。というところが、まずはスタートである。」ということをやっていた。「原料を作っているのが仕事です。」というのは、それは皆さん自信を持って言っていただいていると思うが、加工品、ドレッシングでもジュースでもジャムでもパンケーキでも溢れている。色々な方が色々なふうに試行錯誤されていて溢れている。少なくとも「すごく売れています。」というのは、私の中では見受けて

いない。なので、今、カボチャの話が出ていたが、当別でも芋団子汁が出ているが、「芋が美味しいです。」「カボチャが美味しいです。」「こんなに美味しいのを僕たち作れます。」「私たち作りました。」「誰か加工してよ。作ってよ。売ってよ。」ではないと私は思っている。農産物と加工品を販売させていただいているが、色々と失敗している事例も目にしているので、私がそこで何かできるかというのは、今、こういった話を通して感じていただければと思うが、お答えになっているでしょうか。

○（議会）十分答えになっていると思う。なかなか、加工の関係については課題が多いと思うが、当別町に将来的には必要であるということは共通認識になっているので、どう実現できるのかというのは、農協さんもそうであるし、行政とも歩みを一緒にしながら、進めていければいいのかなと思っている。こちらのほうは要望として受け止めていきたいと思う。他に青年部のメンバーで発言したいという方がいたらお願いします。

○（町民）直接農業とは関係がないことかもしれないが、個人的なことであるが、自分に娘が生まれたということがあり、自分は今、札幌に住み当別で農業を仕事としてしている。当別には小児科がなく、少なくともこれから若手の農家の人たちが結婚するにあたって、奥さんになる人が当別にはそういうのがないとなると来づらい環境にもなるのかなと、マイナスになる部分ではないのかなということもある。胆振東部の地震のときには、ミルクにしろ、オムツにしろ、買いに行くところがほとんどなくて、どこも買い占める人がいて自分たちのところまではなかなか来なかった。それで、困ったなと思って色々な人に聞きながら分けてもらったりということもあって、当別町で新生児、自分の娘と同じ時期に生まれた子ども達も少なくとも10人くらいはいる。周りで。当別の中で。将来のある子どもたちのためにもオムツなり、ミルクなりをあげられる環境が整っていないのは、この先いつ災害があるかわからないが、あると助かるなと思う。あと、自分は消防団に入っているが、当別にはAEDの設置数が少ないということを知ったので、AEDは、新生児にも使えるということなので、自分の子なり、他の子なりがもしそのような状況で倒れているのを見た時に、すぐ探しに行ける場所がたくさんあれば数秒の時間で助けられる命につながるのかなと思った。そういう検討もしていただけたらなと思った。

○（議会）基本的には、要望という形でお受けする。AEDについては、そういうことである。また、地域医療については、この春から堀江病院が閉院になるということから、地域医療のあり方検討会議というものが立ち上がり、報告書が今月の広報に出ているので、参考にしていただければと思う。どういうところに当別の地域医療を移すのかというのは、その報告書も含めて努力中ということで理解をいただければと思うが…。

○（議会）今、要望としてお聞きをし、これは全て町のほうに報告をする。それで、現状をお伝えして理解をいただきたいと思うが、まず、AEDの関係については、人がやはり集まる場所には設置をするということで、数がたくさんあれば例えば100mおきにてあるとかできるが、なかなか、そこまでにはいっていない。ただ、今、心配されていることは分かるし、なるべく多く設置をするように、そして尚且つ、分かりやすい表示をするようにあるとか、そういったことは役場のほうにも心掛けてもらえるように要望していきたいと思う。それと、乳幼児の皆さんの災害時のミルク、あるいは、オムツ。今回の胆振東部の地震でも現地でも足りなくなった。いつ、どこで、どのような災害が起こるか分から

ない。その所管は総務になるので、総務のほうには、備蓄品の中に女性と子どもが必要な物については、十分確保するという事は伝えておきたいと思う。今回、胆振東部の時にゆうゆうにいた方が、胆振東部地震の支援に入り、粉ミルクとオムツそれからまだ色々あったが、それを全国に呼び掛けて集めて、そして支援をするということをしてきた。そういう支援を受けることができる状況にはなりつつあるが、やはり、最初の3日間は自分たちで備蓄したもので間に合わせるということもしなければならない。役場の災害対策のほうに議会としても要望はしておこうと思う。それと、小児科の問題については、いつの時もそういうお話はいただく。それで、町としても、病院の先生の確保も含めて医師会とも協議をしているが、年間60人から70人しか町内で子どもが生まれないので、そこに産婦人科医、あるいは、小児科医をもってくるということは難しい。そうはいつでも全く対応しないというわけにはいかないと思うので、役場のほうでも近くのそういった先生にどうつなげるかであるとか、妊婦の方が一人で病院に行くときの助成をどうするかとか、吹雪のときにどうするかであるとか、そういった支援については、町としても検討して始まっているので、ボランティアと一緒にそれを支えるということも今はできるようになったので、そういったPRも含めて町のほうから皆さんに婦人科とか小児科の先生はいないけれども、看護師さんに電話をして対処をどうしたらいいか。あるいは、どこの病院に行ったらいいか。ということはお伝えできるような仕組みを作ったので、その点については、もっと皆さんにPRするようなことを徹底するよう要望していきたい。

○（議会）それでは、隣の…。

○（町民）2、3年前くらいに10年ビジョンで、農家の親子関係として、祖父世代、お父さん世代、息子世代とか、そういう関係で色々話し合いをした。そのまとめはある程度話は聞いたが、その結果報告、それがどう動いていくのかという流れを全く聞いた覚えがないので、その話を聞きたいと思っている。

○（議会）この中に10年ビジョンに関わっている…。

○（議会）今のことは、議会には報告されていない。

○（町民）自分も少し責任を感じている。本来、議会のほうに何か報告をして、経緯、経過については、話すべきであったと反省している。全くやっていないわけではない。振り返りもしているし、今年もそろそろ集まって話をすると思う。先ほど言ったように、担い手の関係と個別の振興策は、ある程度、数値目標を置きながら進捗管理をしているが、親子関係のほうは少し自分も飛んでるところがあるが、非常に反省している。皆さんにしっかりお知らせするように努力する。

○（議会）それでは、青年部のほうは終わらせていただき、女性部…。

○（町民）このような機会であるので、今、5人の青年部関連、若手の農家として来て要望はお伝えしたが、逆に議会側からの若手農家に対する要望みたいなのがあれば。

○（議会）少し言いづらいが、今回、議会の質問の中で、10年ビジョンもそうであるが、10年後には農家戸数が4割ほど減ると予想している。自分としては、さらにその半分になると予想しているが、その中では、今の皆さん方がこれからの当別町の農業を背負っていく非常に貴重な方々になると思っている。聞きたいのは、どのような将来的な当別町の農業の姿を想像しながら、今、どのような活動をしていくのか。経営をどのようにしてい

くのか。質問の中では自分も言ったが、100町クラスの農家が出てこない、当別町の農業の継続が難しくなるのではないかと。農業委員会としては、できるだけ農地を有効に使っていくという目的があるので、それに向かっていく。これからを担っていく人たちの考え方、対策というか、そこが一番聞きたい。そのことについて、こちらのほうで今できることはやっていく努力が必要ではないのかと思っている。もし、あればお願いしたいと思っている。

○（議会）今の話の中で、当別町は色々入れて今7,800haくらいである。その中で、仮に農業経営者、販売専門の一次産業、一次農家が200戸だとしたら、一人30数ヘクタールになる。今、実際に農家をやられている農家というのは、おそらく400を切っている状況ではないかと思う。年齢構成を考えると、農家の65歳以上の割合が相当多いと思う。そういった人たちも10年後には農業ができなくなると考えたら、新しい人たちがどんどん入って来ない限り、10年後には農家戸数が半減するであろうと思う。とすると、一人80町くらいをやらなければ、今の7,800haは維持できないということが、話ではなくて、現実起こってきていると思う。そういう中で、農業を守るのか、農家を守るのか、個人を守るのか、そのへんの部分もあるだろうから、一概に皆で農業を守っていきこうということに対して、色々と考え方はあろうと思う。そこで質問したいが、そういう事態が来ることに対して、皆さんはどうお考えかを、もし、お話しできる方がいたらお聞きしたい。

○（町民）今の話であるが、冒頭に言われたように当別町の面積約8,000町歩、その中で米が作られている面積というのは、約半分の25%、1,700町歩くらいであると思う。高齢化していく、担い手がいなくなるという部分では、やはり水田を作っていないかければダメなのかなと思う。今回、機会があり組合長と道内を回ってきたが、美瑛ではトマトを作っている。共和町へ行くとメロンを作っている。という状況の中で、水田を守りながら土地のほうを複合しているという部分が多い。そういった部分では、当別町は水田の面積が減ってきている。当別町も弁華別あたりのいい土地が、だんだん牧草地に変わって行って水田の面積がだんだん落ちてきている。改良区の人たちが皆いるが、農地改良の事業が進んで、水田を作る条件が整っているのに水田面積が減ってきているというのは、少し寂しい気がするので、そこらへんを町が感じながら、担い手を育てる。今いる頑張っている人たちの力、知恵を担い手の人たちに回してもらうような、新規就農者に回してもらうような状況を作ってもらいたいと思うので、よろしくお聞きしたい。

○（議会）後ほど答えてもらうが、今、水田の話が出ていたが25%くらいですよ。考えてみると、全道100町村くらいの中で15番目くらいか、20番目以内である。休耕率が高いのは。当別町の場合は、自分で選択できるという方法であったので、今は国自体がそうであるが、約50%以上が全面休耕なんです。そういうところを選択しているところは、そんなにはないのではないかと思っている。それで、残った人で25%ということは、作っている人はだいたい50%以上作っていることになる。であるから、他の一定程度の、50%程度の耕作率を持っているところと、作っている人はほとんど変わらないという感じになっているのかなと思う。それで、当別町としても、一定程度の水田を作っていくことがこれから必要だという認識にはなっている。具体的にどうするかは、まだ方針がこれからなんだろうと思うが、この程度にして、若い人と言うか…。



○（町民）これからの世代の一人当たりの抱える農地の面積が大きくなるということについては、そうであると思うし、今の若手の中では頑張ろうという話はもちろん出ている。こういうプロジェクトを作ってみたりとか、より多くの面積を作付けできるようにしていこうということはもちろん出ている。しかし、やはりそこで一番ネックになっていくことは人材である。人が集まってこない。当別町で募集をかけたところで、今の現状なかなか集まって来ないというのがたぶんある。それで、農協さんのほうで人材コントラをやってもらったり、派遣会社とかを活用して入れているところもあるが、そういうところの充実もそれに伴って必要になるかなど。人材の確保という点で。であるので、他力本願になってしまうのかもしれないが、そういう支援的なところももっともっと大きく窓口を開いていただければ、そういう面では改善できていくのかなと思う。僕たちができることは、大きくなった面積をどう作付けをして、どういうものを作って後世につなぐとかが一番大事であると思うので、まずは僕たちはその勉強を怠らずにやっっていこうとは思っている。

○（議会）女性部の関係で出席していただいている。何かあればぜひお願いしたい。

○（町民）今日はJA大会もあり、出席しようか迷ったが、もしかするといつか議会にお願いしなければならない時もあるかもしれないから、出席させていただいた。議員さんと膝を交えてお話できる機会を作っていただいたことは良かったと思っている。先ほど出た六次化に関連して言えば、色々なところに加工場があって、私も何年か前に組合長のところに行って、「加工場のことは少し考えていますか。」と尋ねたことはあるが、「加工場を建てて、元が取れるのか。」というようなことを聞かれた時に、建物を建てたって元を取れっこないから、その責任を負えるんだったら、組合長にもっと頼みに行くつもりであったが、そういうふうに言われてちょっと無理であるなと思った。農協にしろ、町にしろ、お金がないという状況であった。加工場のことは江別市の三原にある閉鎖された学校をえみくるといって一般開放されていて、「当別町の人でも使えるよ。」と江別の女性部の方から言われて、「料金は江別市民も当別町民も同じだよ。」と言われて、「使っているだよ。」とは言われたが、あそこの加工場で何か作って、こっちのほうに持ってきてというのはちょっとあれだし、でも、道の駅ができたんだから、おにぎりでもいいから作って売れたらいいなということは、ちらっと女性の中では話している。当別町にそういう加工場はないので、材料はあるが、手掛けられない。個人経営でお豆腐を出したりしている人はいるが、どこまで儲かっているのかもわからないし、ちょっとあれであるが、だから、先ほど言われたように、カボチャは私たちが作るけど、加工は町の奥さん方が担当してという感じで、そういう工夫も将来的には、やってもらえればいいなと先ほどの話を聞きながら思った。先ほど、考えてなくはないと言われていたので、何か展望はあるのかなとは思っている。それと、災害のことで言えば、胆振東部地震のときに、私の息子たちがスマホか何かを見て、断水になるよって言っていて、断水になるなら町の広報車か何か回るだろうと思ったが、そうやって息子たちが言うもんだからお風呂とか家にある入れ物中に水を貯めて頑張った。でも、断水にならなくて、その水は無駄になった。きっと町の人たちも断水になるという誤報が回っているということは、たぶん知っていたと思う。だからその時に、町の広報か何かで「それは誤りですよ。」と、当別町に防災無線がないから、そういうこともあの災害が起きて感じたことである。それと、農業の後継者として、私たち

は、母親として男の子も女の子も産んできている。でも、その子たちが農家に就農していないとか、うちの息子はたまたま就農したが、「就農するにあたって、泣き言は言えないんだよ。」って、そのような感じで言った。「それこそ、給料もそんなにあげられないし。」っていう感じで「それでもいいならやりなさい。」と。親から進んで「農家をして下さい。」とは言えなかった情勢であった。今は経営移譲されて、私は、「養って下さい。」という立場になっているが、新たに新規就農、非農家の方が新規就農する時に手厚くするのも必要だけど、大学や高校を卒業して、進路を決めるときに農家に来たら農協から当面の給料が当たる制度があるよと言えば…。新規就農に対して、二木とかトマトとかハウスインゲンとかに新規就農に来ているが、町がすごく財源があるのかは分からないが、結構大きなお金をその新規就農者にあげる。でも、その何年間かが終わったら、いなくなってしまうと。甘い汁だけ吸っていなくなってしまうという話をちらっと聞いた。私も農家に生まれて、お爺ちゃんたちが作ってきた土地をなくしてはいけないと子ども心に思って農家を継いだが、それなりの報酬はあまりなかった。でも、そういう立場にいたから農家に就農したが、本当の新規就農も大切であるが、代々農業をやってきたその子どもたち、その人たちが、それこそ親から給料がたくさんもらえなくても最低限の小遣い程度はもらえるような援助をしてもらえれば、うちの隣もおじいちゃん、おばあちゃんだけにならないで済んだのではないのかなと思う。今日、美瑛大会に行って常呂の組合長さんが、「農家はやっぱり家族経営だ。」と言っていた。私もそう思う。私も年を取ったが、こんなに仕事ができなくなったというのは、すごく最近思って、新たなことに挑戦できなくなっている。であるから、加工場やなんかも私はできないなど。それは、離農していく農家の土地が、後継者のいるところに集まってきて、息子たちもとても忙しくなっている。だから、うちの息子はもう土地はいらないと。これ以上増やせないって。近所の人に言わせれば、誰か従業員を雇えばいいんだと言われるが、そのような人もなかなか見つけられない現状にいるから、やはり農家で生まれた子どもたちが、農家をできるようなそういう支援も、新たな新規就農も必要であるが、そう思う。

○（議会）町独自とか、いわゆる新規就農者、家族経営でも支援の関係があったが、これは、国の支援が今充実している。名前が変わり、今は農業次世代人材投資事業ということで、準備型と経営開始型があって、それぞれ2年間、5年間ということで、夫婦でも受給される制度がある。これは、国の事業であるが、当別町が窓口になっている。今のところは、申請に該当する人は、全員対象になっていると聞いているので、そのことについてはある程度カバーできると思う。それから、震災の水道の件があった。水道が止まるという誤報が流れていたが、当別町では広報車を出して、広報活動をしたと聞いている。必ずしも、情報が伝わらなかったということもあるが、今後、十分に伝わるような方策でいけばいいのかなと、いきたいということで進んでいるので、よろしく願います。加工場については、先ほどからお話があったように、当別町でも進めたいというところで進んでいるが、今のところ、具体的にというところまでには至っていないということで、ご理解いただきたいと思う。お話としては、要望ということでいいのかなと思うので、お願いしたいと思う。まだ、各団体からお受けしていないので、当別土地改良区にお願いしたい。

○（町民）改良区の役員になって10年以上になるが、その中で先ほどからも言われてい

るように、当別土地改良区でも組合員数というのは、10 何年前からみると半分くらいになった。今回、組織改革していく中で、役員を減らすとか、理事、総代を減らして、それを1回やるだけでもすごくかかる。次の総代の任期までといたら。たぶん今変わって、次の総代会までには、今の組合員というのは、それは当然篠津中央も同じであると思う。その中で当然基盤整備であるとかを大きくして若い世代に作りやすいような圃場の整備を考えているが、今、当別の本町のほうでも事業を進めているし、その次が川南地区になるのかなと、その後にもまた次とやっているが、私がまだ太美の町内にいる段階でいうと、田んぼの部分はいいが、特に排水という部分で、やはり泥炭地が非常に強いという中で、排水が上がるというか、畑が下がるというか、顕著であるのが太美地区でも今年水害、7月かな、機場も2日か3日回した経緯もある。あと、この前の10月末の一晩で一気に雨が降った中でも南5号線くらいの排水というところで、畑に一部上がっている部分もある。そんな中で、客土であるとかそういった部分で土地改良区としても圃場整備というか、次世代に残すということが一番肝心であると思う。確か、明日から町長が東京のほうに要請に行くと思う。いい圃場になって若い人が面積が増えても作れるようないい圃場になっていけばいいのかなと思うので、町長によろしくお伝え下さい。

○（議会）今のことについては、要望ということで、十分に分かっているつもりではあるがお受けした。次は、篠津中央土地改良区のほうからお願いしたい。

○（議会）議員も少し話さないといけないので。大きな課題はたくさんあるが、一つの課題からお話しすると、当別町の面積は7,800haある。そんな中、農家戸数は減少している。これをどうするかということである。そうすると、やはりだんだんと集積も多くなっていく。そうすると、「青年部の方頑張れ。」だけではだめである。やはり、これからは集積が増えてくるので、省力化を図るためには、これを短時間に終わらせるということになると、大区画化が必要である。これは土地改良区であるが。これは大区画化する中でICTを活用しなければならない。今、無人トラクターから、ドローンも使っている。そんなものを利用しながら、大区画化により作業能率をあげ、そして特に生産性を向上するようにしなければならない。そういうふうにしていかなければ、「農家は何も小遣いもやれないのか。」ということにならないように、生産性を上げて、「いつも暇がない。」ということではなくて、機械化で「やっぱり暇なんかありますよ。」というようなことにするためにも、土地改良区は必要である。青年部の方の色々な要望も聞いた中で、進んでいきたい。ただ、たくさん課題がある中の一つである。その一つとしては、まずは、それをやっていきたいと思っているところでもあるので、よろしくお願いしたい。

○（議会）それでは、花き生産組合のほうに案内をさせていただいておりますが…。

○（町民）今までの話の中で新規参入制度の話が出たのと人材コントラの話が出たので、そこで納得したところである。人材コントラに関しては、人手が少なくて自分の売り上げが上げにくいということもあり、各自が人を募集してもなかなか集まらないと。募集しても短期間の雇用という形であるので、なかなか人が集まりにくいということもあった。そこで、農協さんも考えているので、人材コントラがこれから進むことを期待している。町への要望としては、パートの話でいったときに、海外から人を雇うことはできないのかというところを要望しておきたい。

○（議会）今、国のほうでも長く海外から就農できるような制度に改正されると聞いているが、当別町でもどのようになっていくのか。今のことについては、要望ということで反映させていければと思っている。

○（町民）よろしく願います。

○（議会）それでは、農業委員会のほうで何かあればお受けしたい。

○（町民）当別町の農地の担い手への集積が、もう 80%以上と、かなり集積になってきてしまっている。先ほどから心配されているように、農家戸数が減っていくことによって、一戸一戸の営農面積が増えてくるというのは変えようがない事実であるが、やはり、個人経営をしっかりとやっていけるような施策がないと、農業はできるかもしれないが、地域コミュニティというのが完全に崩壊してしまうと思う。だから、大きな農業者がいてもいいが、その地域に小さい農家たちが生き延びていけるような施策を少し考えていただかないと、大型化すればそれでいいということではないと思う。農業委員会としては淡々と集積を進めていくが、町とか、農村とかを守るときには、そういうことを考えていかないといけないと私個人としては思っている。個人的な意見で申し訳ないが、願いたい。

○（議会）今の件については、よく分かる。その通りだと思う。日本は、家族経営、自給的農家とは言わないが、そういう農業のあり方というのが日本的であるということとはよく分かる。ただ、当別町として考える時には、この農地を守っていくのにはどうしたらいいのかという観点もあるので、併せて両方が協力し合いながらいけるということが一番理想かなというふうに思う。

○（議会）レンガ倉庫の中で課題とかあったら、お聞きしたいと思う。

○（町民）先ほどから道の駅のお話もあり、同じ町内で直売所をやっているということで、とても気にしながらこの夏のシーズンを過ごしていた。町長は、冬季も道の駅のはなポッケ店を開いて集客につなげたいという話を何度もされていたように伺っていたが、11月の一昨日に冬季間に向けたクローズということになったということを知っている。ふれあい倉庫は11年目になり、冬期間も休まず営業しているが、なかなかそのへんはお客さんに「あんたたちの店、いつ閉めるのさ。」というのをすごく聞かれて、11年間も冬に開けているのに、まだそこが定着していなかったんだなというふうに寂しく思いながら、「いや、私たち冬もやってるんですよ。」ということを行っている。11月11日で閉めた、はなポッケさんの経緯については分からないが、若い農家の方が冬は外に仕事に行くということもあったりして、冬期間に供給できないでいるのかなというのが薄っすら見えたりしているが、ふれあい倉庫はそんな中でも、どこからも今お金をいただいている状態で、10年させていただいて、冬期間も休まず営業させていただいている。困っていることと言えば、やはり出荷してくる農家さんが高齢化になっているが、逆を返すと、作が小さいところの高齢化した農家さんが細かく色々な物を作付けして、順々にお客さんの要望に応えるような作物を作っていただいているということで、そういうノウハウがもう少し大きい規模の農家さんにも行き渡ると来シーズンははなポッケ店さんも開くのかなと思ったりしながら、そのへんが、親方が全く違うところで経営しているので、連携がなかなかできていないというところがあることは少し残念に思っているところもある。そんな中、tobe さんで扱っている加工品をふれあい倉庫も共同で仕入れさせていただけるというこ

とになった商品があったりして、そういったことで、ふれあい倉庫のお野菜を tobe さんで冬季限定という形で扱ってもらうような動きをしているので、町の方や議員さんにも応援してもらって、ふれあい倉庫と tobe、ないしは道の駅のつながりを助けていただけるようなことがあったら、ご協力いただければと思うので、よろしく願います。

○（議会）それでは、案内させていただいた団体で漏れがあるところがあるのかもしれないが、もしあったらお願いしたいと思う。それから、皆さんのほうから言い足りなかったこと、もっと言いたいことがあったら、お願いしたいと思う。

※特になし。

○（議会）それでは予定していた時間になったので、最後の挨拶の前に議長のほうからいただいてないので、あったらお願いしたい。

○（後藤議長）今日は、お忙しい中、寒い中おいでをいただきまして、色々な意見交換をしていただいた。そういった意味では、今まで 12 回行っているが、多くの意見をいただいて、そしてそれぞれ意見と意見を交換し合えたかなと思う。先ほど、色々な意見をいただく中で、このままいったら農家の大規模化は進むが、農村のコミュニティーが崩壊してしまうのではないのかというお話があった。また、自分の子どもや孫が農家を継いでくれないというお話もあったが、そこをどうやったら打開できるのかなというふうに考えている。例えば、その一つの方法でしかないのかもしれないが、働くお父さん、お母さんを見て、やっぱり農家をやって良かったなという結果を子どもたちにどう残すかということかと思う。たまたま、新篠津の農家さんが色々なことをされているが、4人子どもがいるはずで、4人ともが自分は農家をやるんだということを言っているという話を伺った。なるほど。やはり何かあるんだなと思って、色々な話をしたが、やはり奥さんとも色々協力しながら、多角化をして、それで、二次加工、六次産業化ということを家の中で行っている。ということは、生産したものに対する付加価値をしっかりと付けて、そしてそれも市場の動向を見据えて、高値で売る。そして、収益を上げる。ということがしっかりできるスタイルを確立ができたので、それを見た子どもさんたちも自分も農家をやりたいということを考えているのかなと思う。なかなか、そのことは一朝一夕にはいかないが、二次加工、六次産業化を進めて、農家の皆さんが付加価値を高めて高く売るという仕組みを皆で考えて作っていく。そのことが皆さんも豊かになるし、そこで育つ子どもさんも「お父さんみたくなりたい。」と思えてくるのではないのかなと思う。先ほど、IoTの話もあったし、機械化の話もあった。これからの農業はスマート農業を推進しているが、今までの、何ていうか泥が付く農業は当然そうであるが、泥が付きっぱなしではなくて、少し泥を避けられるような農業にどう進化していけるか。あるいは、人手不足の話もあった。今、まさに今日から国会では入国管理法の改正の議論が始まったが、農業分野での人材の確保をどうするかという議論がこれから始まっていく。ちょうど 19 日の日に、新篠津の議長と石狩町村議長会で農林水産省の方にお会いすることになっている。先月もお会いし「人手不足は深刻ですか。」と聞かれたので、「それはきちっと調査をして、どれだけ必要なのかお答えを持ってきます。」ということで、今、新篠津村議長とも「それを持っていきましょう。」という話になっている。議会には、色々な請願陳情が来る。例えば、外国人労働者の受け入れについて、若い人たちは自分たちの将来の農業経営を考えてどう判断し

て、今の政府の施策をどうしたいのかというお話も議会のほうに聞かせていただければ、今後の議会の対応としてもありがたいなというふうに思うし、いつも農協さんであるとか、土地改良区さんからは色々なご意見をいただいて、議会のそういった陳情請願に対する答えにさせてもらっているが、やはりこれからの農業を担っていく皆さんが、どう考えているのかということは、議会としては、今後ともお聞かせをいただきたいと思うし、10年ビジョンをまとめていただいている農協組合長さん、農協さんも含めて、あるいは、改良区さんも含めて、今後の農業のあり方、生産性をいかに上げていくかということをお聞きしたいと思うので、今後ともよろしくお願いを申し上げさせていただきます、議長としてのご挨拶とさせていただきます。

#### ◎岡野議員閉会挨拶

最後にお礼を申し上げたいと思います。今、議長からお話があり、だいたい締めをしていただいたとは思っているが、今日は12回目の議会報告会ということで、皆さんとこうして膝を交えてお話をさせてもらった中で、色んな意見を出していただきました。それから、これからの当別を支える若い人達がどんな考えをしているのかなというのも少し分かってきました。皆でこの当別をどうしたらいいかということを考えていきたいと思いますので、これからもこういった会合には、もし機会がありましたら、参加をしていただいて、皆さんのお考えを聞かせていただきたいと思います。今日は、本当に夜遅くまで真剣にご協議いただき、ご意見をいただき本当にありがとうございました。皆さんのご意見につきましては、私どもも十分検討しながら議会に反映していきたいと思っています。それから一言だけ言わせていただきますが、議員のほうからあまり意見が出ませんでした。私どもの議会報告会は取り決めとして、議員の個人的な意見は言うなということに決めておりますので、そういった意味では、ちょっと違和感を感じさせてしまったのかもしれませんが、私ども、私たちも、皆さんもそれぞれの立場でこれからの当別町の発展のために頑張っているということは間違いございませんので、今後ともどうぞよろしくお願いを申し上げます。今日は、大変ありがとうございました。